

聖灯祭おめでとございます

聖隷学園浜松短期大学と聖隷クリストファー看護大学が一体となり、大学組織が聖隷クリストファー大学となったことから看護学部、社会福祉学部、看護短期大学部が合同して新たに聖灯祭が発足しましたことをお喜び申し上げます。

聖隷学園の看護教育は昭和26年(1951年)の聖隷准看護学園に始まります。教育の中心であった西村ミサ先生は当時の教育を「貧しさの中に豊かさが、忍従の中に自主が、苦しみの中に歓喜が…」と記しています。そしてこの精神は聖隷学園衛生高校になり、聖隷学園浜松衛生短大になり、聖隷クリストファー大学へと受け継がれ、発展してきました。福祉教育は昭和58年(1983年)のへルパー学園に始まり介護福祉専門学校から社会福祉学部が発展しました。聖隷学園の看護教育も社会福祉教育も聖隷の歴史と深いかわりの中で進められてきました。それは昭和初期(1960年ごろ)の貧しい、行き場のない見捨てられた結核患者さんと共に生き、灯りをとすことでした。灯りをとすこととは暗い孤独な絶望的な人生を歩まなくてはならなくなつた運命の人の友となり、希望の光と優しさと温かさと、喜びを見いだすことでした。聖隷の歴史は病氣や障害と差別に苦しむ人達、孤独な高齢者などさまざまな困難に立ち向かう人たちに灯りをともしつづけることでした。

大きく大学が発展し変わるこのときに聖隷クリストファー大学の大学祭が聖灯祭とされたことは素晴らしい適切なことのように思います。聖灯祭の成功を心からお祈り申し上げます。

聖隷学園理事長、長谷川 了